



一一八三年五月  
となみ  
砺波山東斜面  
しやめん

まるで竜だわ  
りゆう

白旗が連なって  
生きもののように

白鳩!  
しろとび!

吉祥だ  
きちじょう

神よ  
われらに力を

富山県内には多くの義仲伝承地が残されています。  
各地域に足を運んで源平合戦の時代に  
想いを馳せてみましょう。

### 朝日町

宮崎党の本拠地。北陸  
宮と宮崎にまつわる伝  
承地が多く残る。「宮  
崎城跡」からの景色は  
あっかん  
圧巻。

### 小矢部市

「俱利伽羅合戦」の  
舞台であり、「埴生  
はちまんぐう  
八幡宮」の他、多く  
の伝承地が残る。

### 高岡市

越中国府がおかれて  
いた。「弓の清水」  
など義仲の戦跡にま  
つわる地名が残る。

### 富山市

今井兼平が陣をとった  
「呉服山」(呉羽山)を  
はじめ、義仲の戦跡に  
まつわる地名が多い。

### 砺波市

「午飯岡」など義  
仲の戦跡にまつわ  
る地名が多い。

### 南砺市

石黒党の本拠地。  
巴御前が晩年を  
過ごした「巴松」が  
残る。



# 富山県の 義仲伝承地

平家を倒し  
越中を守る  
力を――

本当に  
越中宮崎に  
御所を!?

一一八二年  
越中宮崎

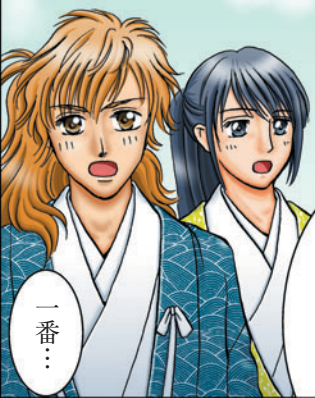
まんがでわかる

# 義仲・巴と 越中武士団

素晴らしい：  
美しい水と山と海  
自然の恵みと生命力に  
満ちている  
大きな力に  
守られているのを  
感じる



いろんな所を  
見たが…  
ここが一番だ



一番…



義仲様は  
都から宮様を  
お迎えするために  
諸国をめぐって  
いました

義仲様が挙兵する  
きっかけとなったのは  
平家の悪政をうったえる  
「以仁王の令旨」を  
いただいたことでした

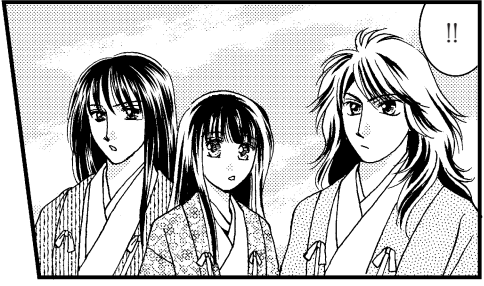


しかし王は平家に  
討ち取られてしまいました。  
残された子供たちは  
平家との戦いで大きな勝利を  
あげた義仲様を頼って  
都から北陸へ向かって  
いたのです

聞いたか石黒…  
オレの夢が  
叶う時がきた…



越中から  
日本を変える  
絶好の機会だ！



!!



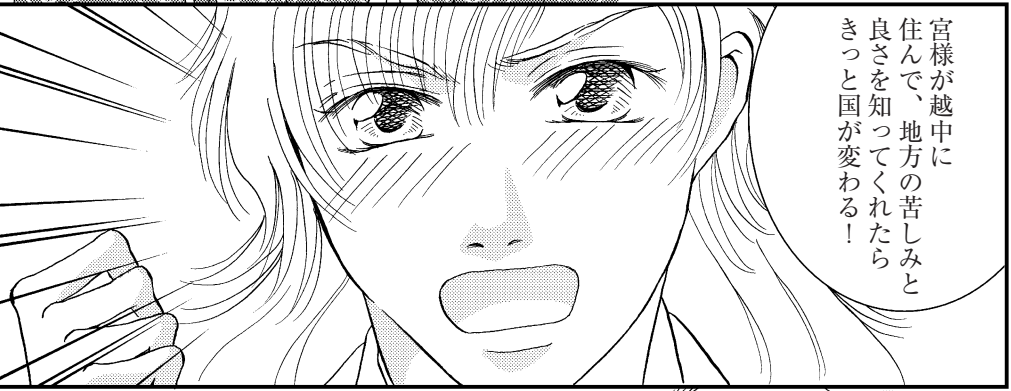
れ：冷静になれよ  
宮様をおあずかり  
するだけだろ…？

石黒もいつも  
言ってるだろ



苦労して作った米が  
うばわれるばかりで  
おもしろくないって  
院から平家に政権がかわっても  
やることは同じって

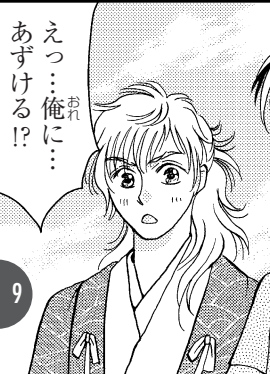
宮様が越中に  
住んで、地方の苦しみと  
良さを知ってくれたら  
きっと国が変わる！



大きな自然は  
大きな人を  
育てるのだな



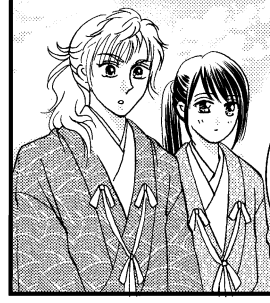
気に入ったぞ宮崎  
お前を見込んで  
宮をあずける



えっ…俺に…  
あずける!?

それぞれの地に  
住まうものが  
それぞれの声をきき  
それぞれの地のめぐみをうけ  
それぞれの地で願いをはたす  
そんな国を作りたい

それぞれの  
地で…



それが  
オレの夢!

石黒の地は  
石黒が

宮崎の地は  
宮崎が

今井の地は  
今井が…



オレの役目は  
それをつなぐこと

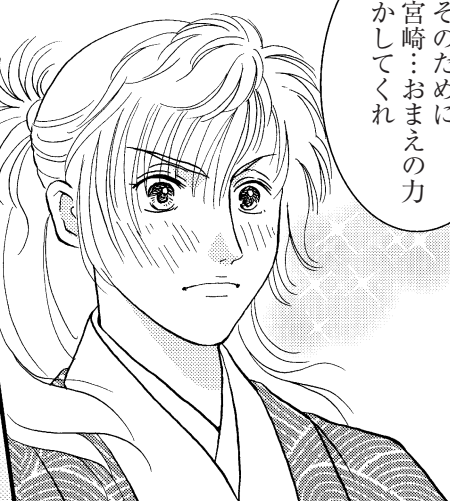
一つ一つの輝きが  
争うのではなく

競い合って 認め合い  
結びつく  
その時もっと大きな光が  
うまれるはずだ



そのために  
宮崎：おまえの力  
かしてくれ

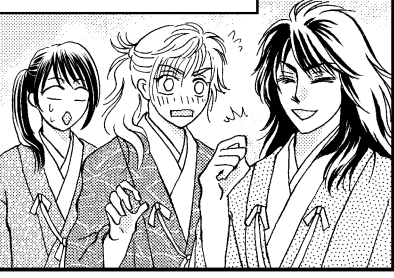
もちろん  
です



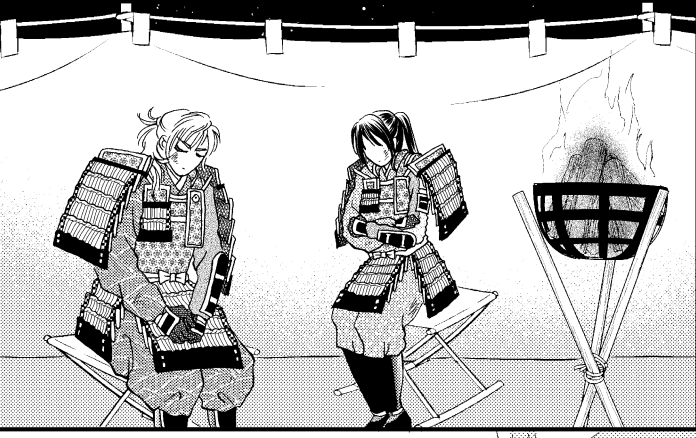
新しい国は  
越中が都になるかも  
しれないわね



越中の皆さんが  
義仲様のもとに  
加わったのは  
大変喜ばしい  
ことでした



しかしそれが  
北陸を予想以上の  
戦火で焼くことに  
なるとは その時  
誰も思い至らな  
かったのです



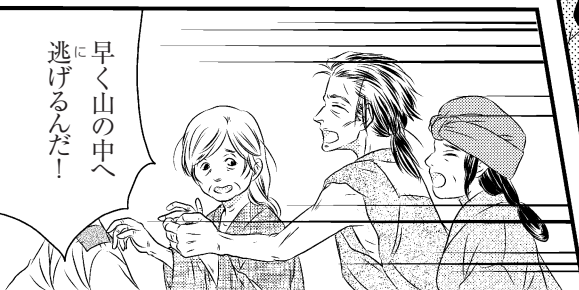
どうした  
宮崎

夢を…  
夢を見ていた

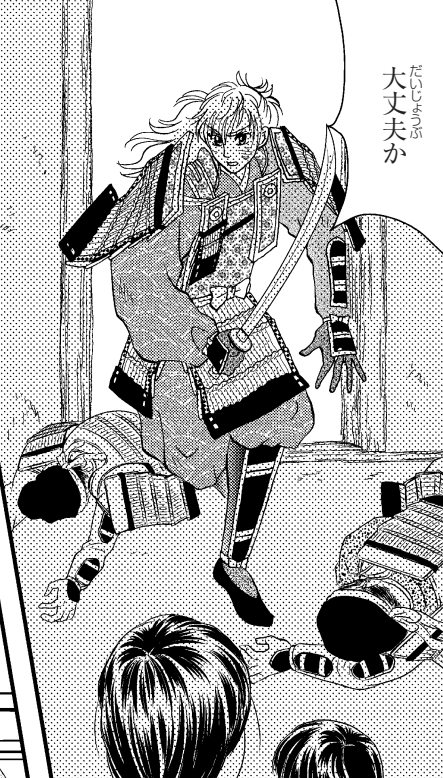




街道筋はあぶない!



早く山の中へ逃げるんだ!



大丈夫か



宮様は宮崎城におられる...しかし

平家にここまで攻め込まれるなんて



宮様の御所が宮崎に決まった日のことを...

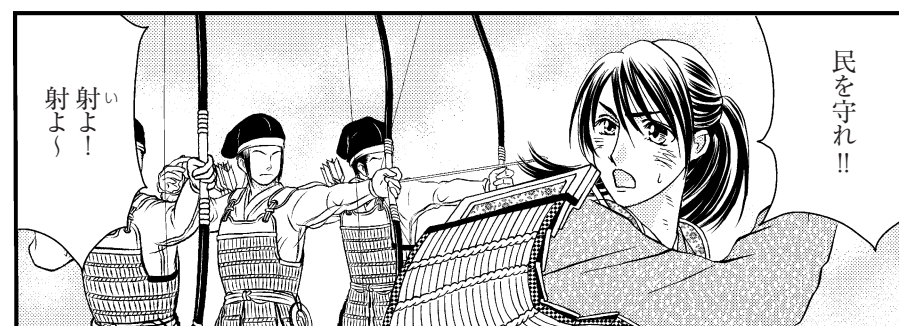
ああ現実だ

夢じゃないだろ



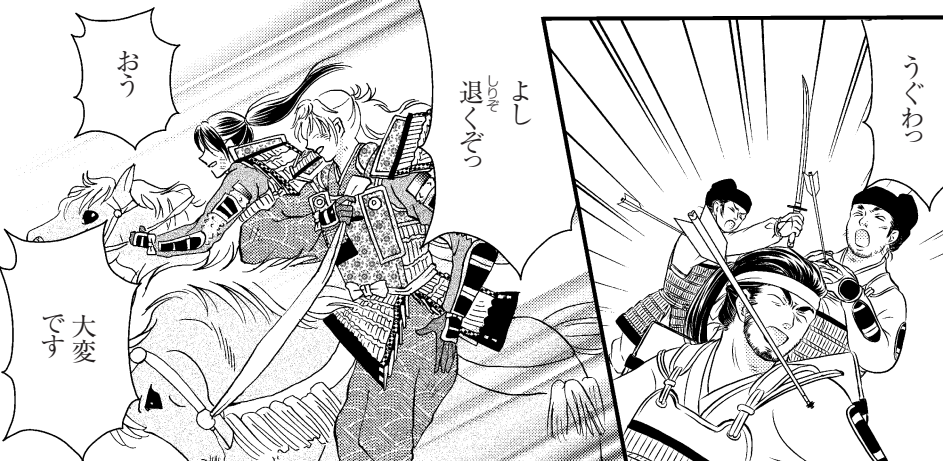
一一八二年二月平家が義仲様に對して 十万もの兵をさしむけました

なんとその兵たちは北国街道を進みながら民家や農地をくり返しおそったのです



民を守れ!!

射よ! 射よ!



うぐわつ

よし退くぞ

おう

大変です



米を出せ米を!!

はむかうとひどいぞ! オレたちは平家の兵だ

米などありません

女子供だけかよ

かえって好都合

この先の集落に  
すでに平家の軍が



なっ

林、富樫殿が  
応戦中とのこと

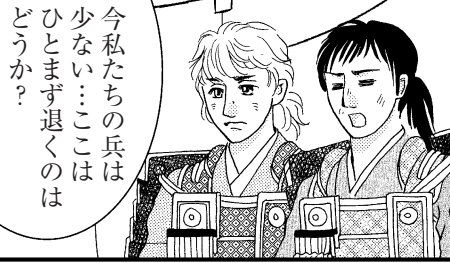
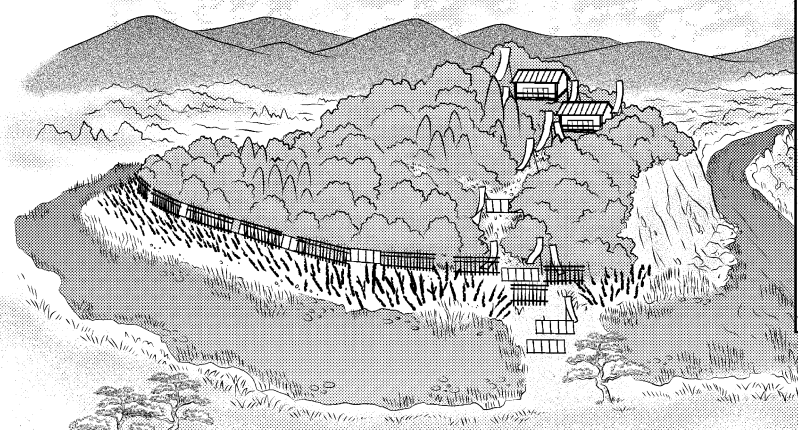


平家の軍を先導して  
いたのは  
義仲様をうらぎった  
平泉寺齋明でした

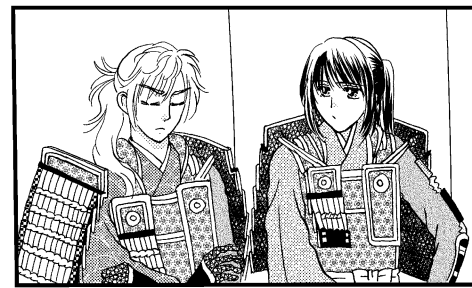


越前の武士である  
齋明は、北陸諸将が  
作った城をすべて  
知り尽くしていました

守りの要である  
城をおさえられては  
北陸諸将には  
なすすべが  
ありませんでした



今私たちの兵は  
少ない…ここは  
ひとまず退くのは  
どうか？



戦う前からわかっていて  
ことではないか

平家の兵が多かったから  
負けたとか言ってもしょうがない

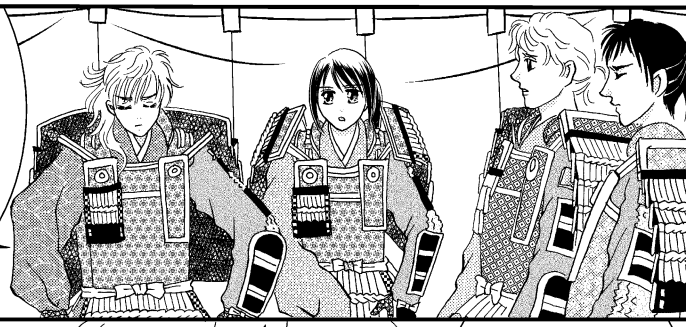


せめて敵に一矢  
報いなくては  
胸をはってお会い  
できない！

オレたちの意地を  
みせようでは  
ないか！

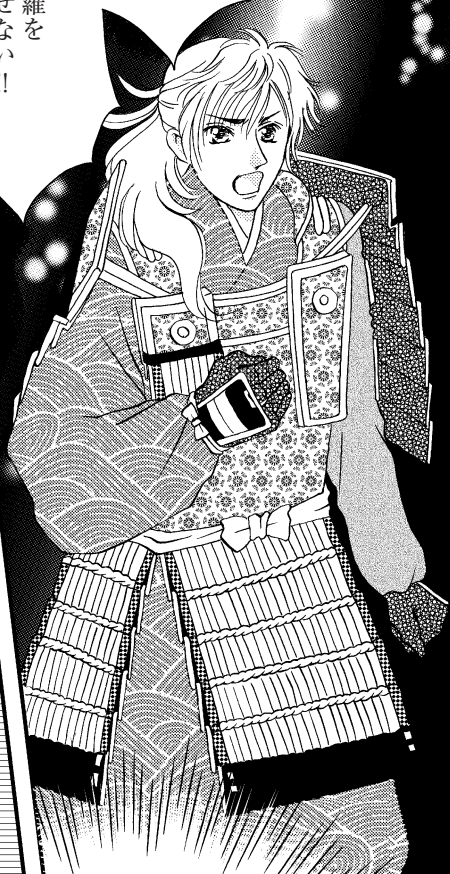


義仲様は我らを  
信じて宮を  
おあずけ下さり  
北陸をお任せ下さった



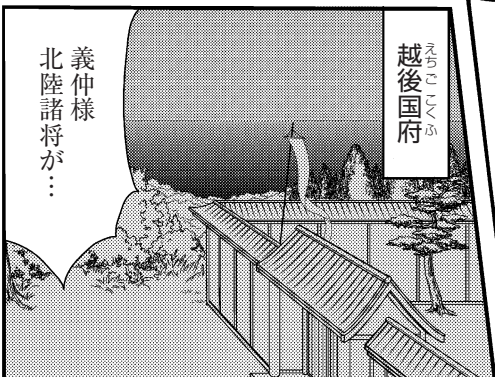
宮がおわす  
越中に平家を  
入れてなるものか

俱利伽羅を  
こえさせない!!

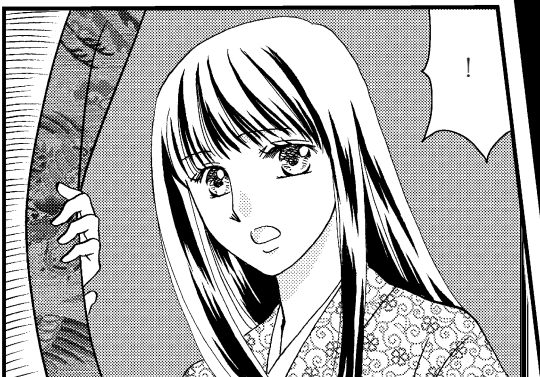


義仲様の  
援軍が  
越中に入るまで

越後国府



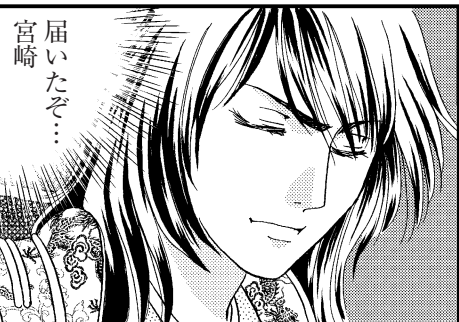
義仲様  
北陸諸将が…



今井にすぐ  
出立の準備をさせよ



あわせて  
しなの  
信濃へ援軍  
ようせい  
要請を



届いたぞ…  
宮崎

宮崎、石黒が  
決戦の地に  
選んだのは  
かが  
加賀、安宅でした



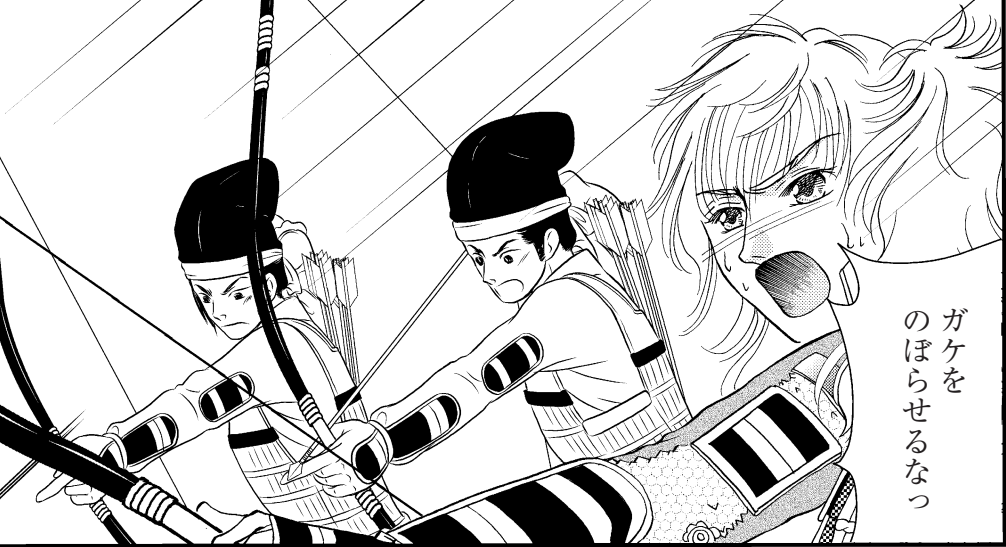
北陸諸将は  
平家一万の軍勢を  
千騎に満たない軍勢で  
戦おうとしていました

こざかしい  
ひねりつぶして  
やるわ

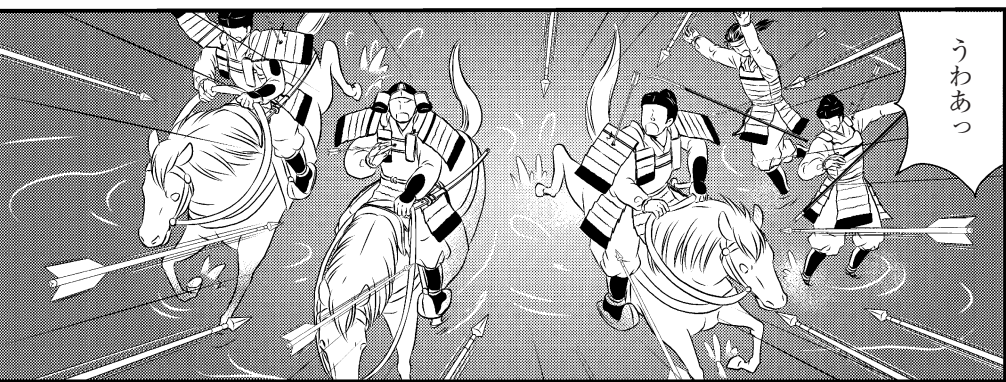


お前の  
声が





ガケを  
のぼらせるなっ

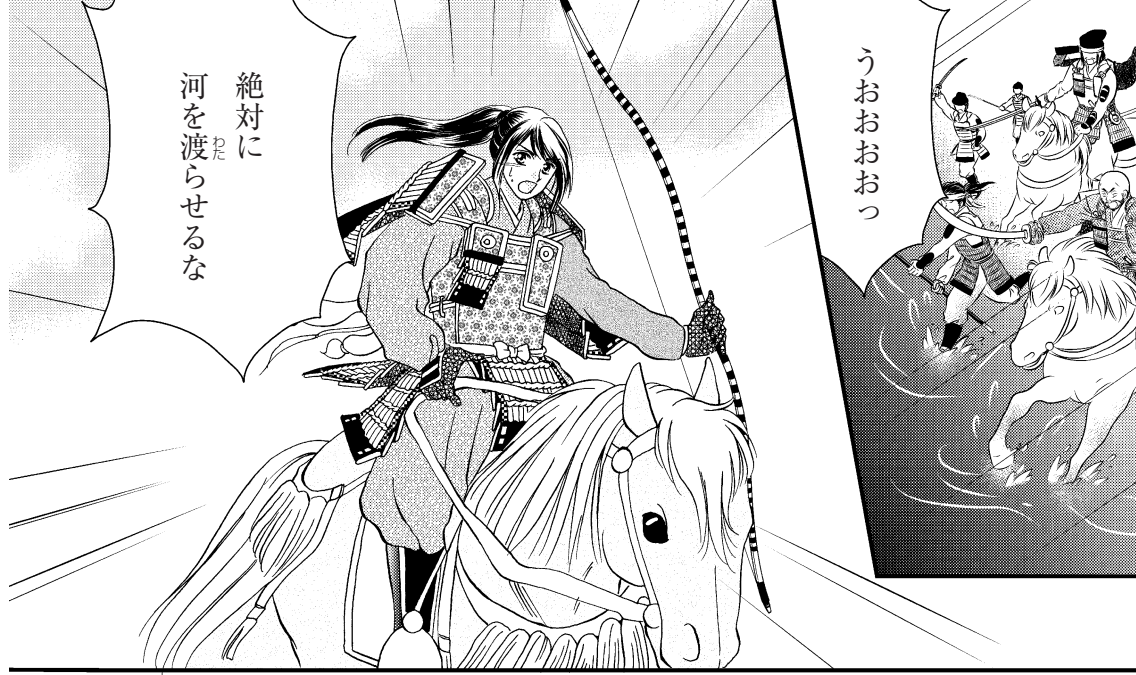


うわあっ



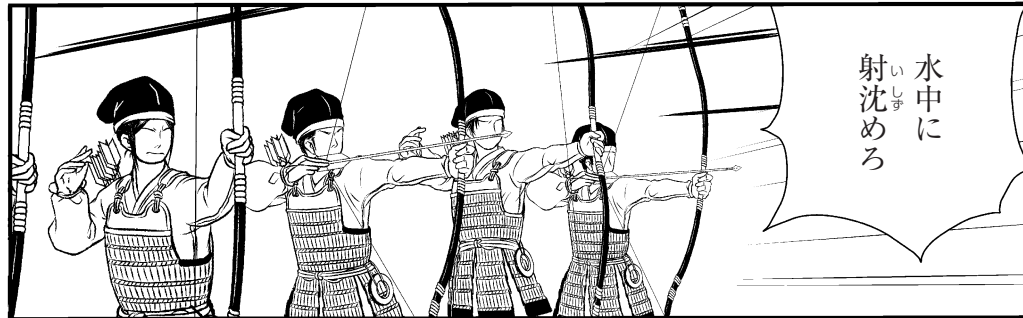
俺たちが  
守るんだ

越中を



絶対に  
河を渡らせるな

うおおおおっ



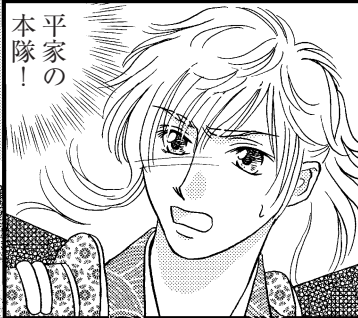
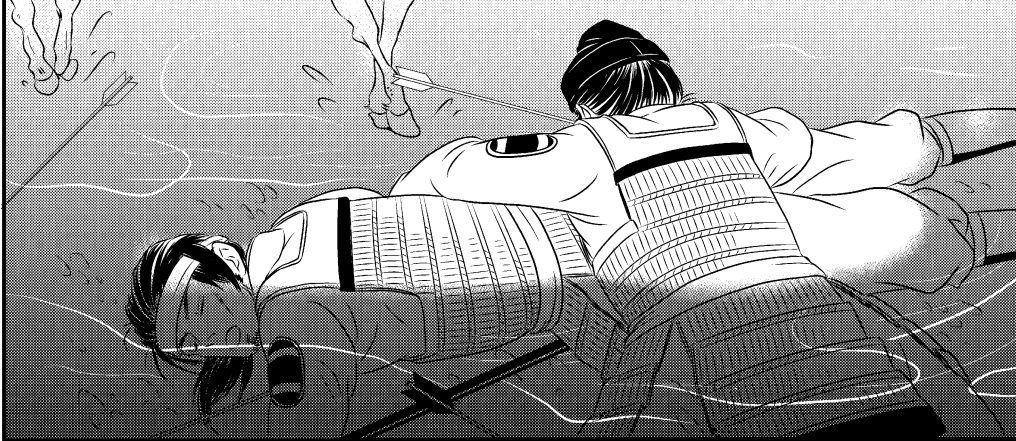
水中に  
射沈める



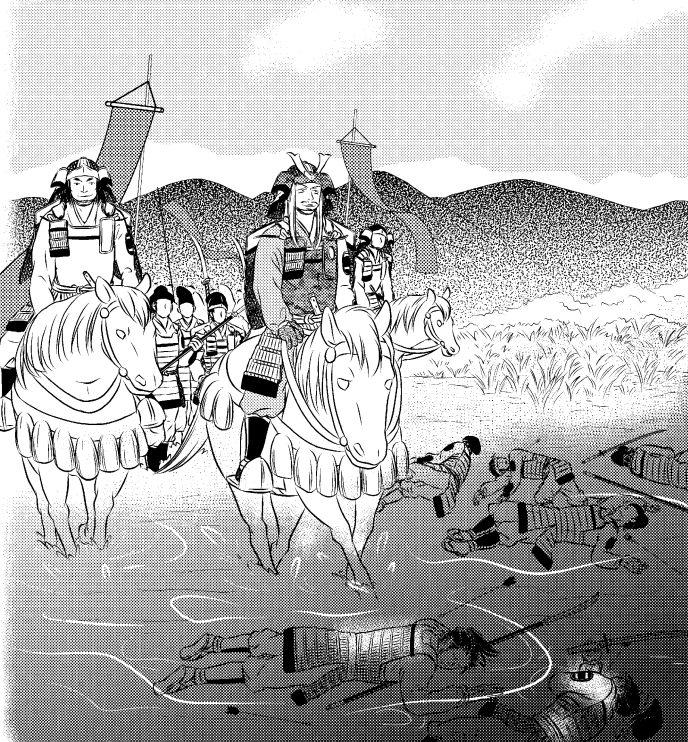
手をゆるめるな  
次が来るぞ

うわあっ

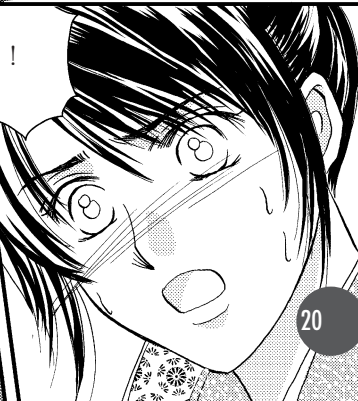




平家の  
本隊!



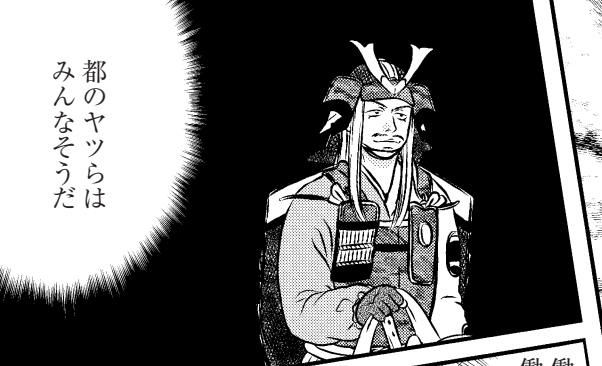
生きてる味方の上を  
馬で——!?



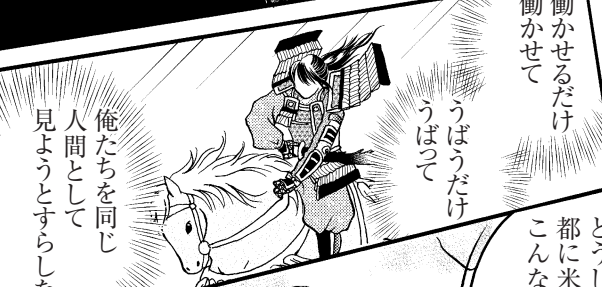
お…前ら…

人の命を  
何だと思ってるんだ

どうして不作なのに  
都に米を  
こんなにおさめるの



都のヤツらは  
みんなそうだ

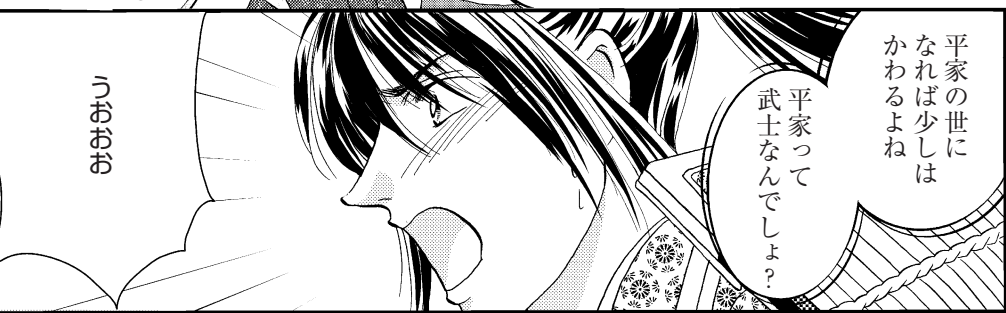


うばうだけ  
うばうて

俺たちと同じ  
人間として  
見ようとすらない



みんな  
こまってる  
のに



平家の世に  
なれば少しは  
わかるよね  
平家って  
武士なんでしょ?

うおおお





俺に続け!



石黒のかたきを  
とれえっ



いかに優れた  
武将ぶしやうがいても  
勝負を  
決めるのは…数!!

おろかな…

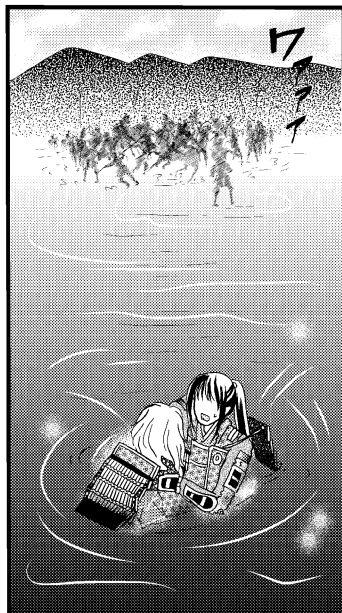
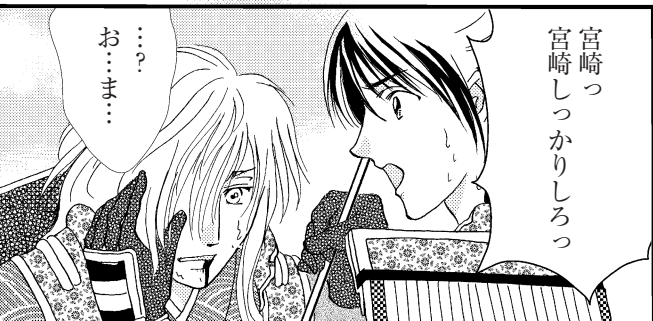
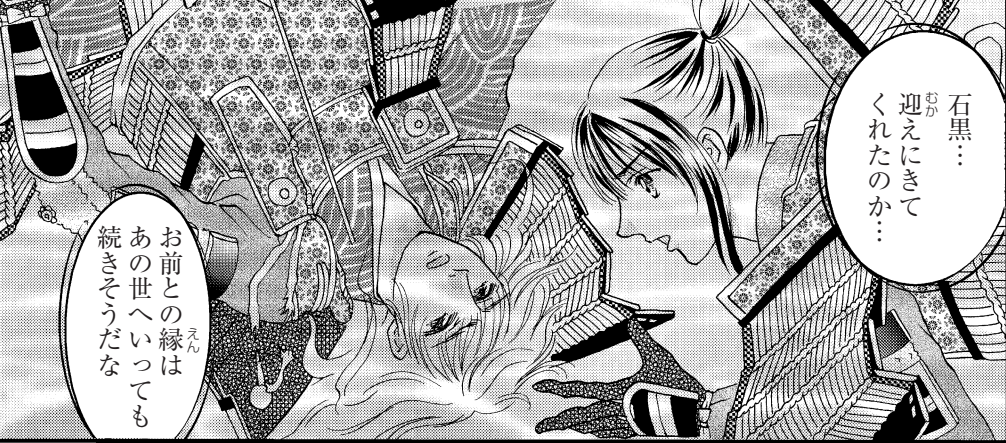


おのれ平家〜!!

石黒っ

い…っ…

ぐろおおおっ



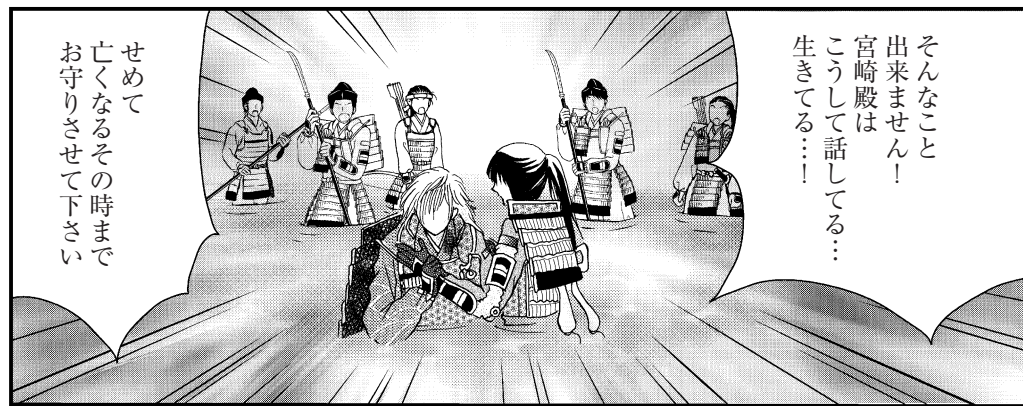


バカ言うな！  
越中を輝かせるのは  
お前しかいない！！



：敵に首をとられる  
前に俺の首を掻け…  
そして…越中に  
もちかえってくれ

俺は…もう…ダメだ…  
もう…動け…ない

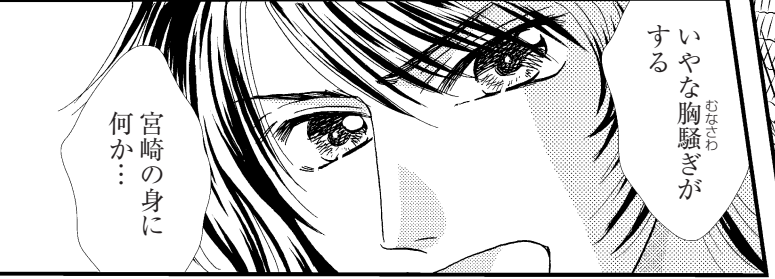


そんなこと  
出来ません！  
宮崎殿は  
こうして話してる…  
生きてる…！

せめて  
亡くなるその時まで  
お守りさせて下さい



どうされました  
義仲様



いやな胸騒ぎが  
する

宮崎の身に  
何か…



…みんな…

みな  
皆の者  
宮崎を守れっ

越中武士団  
最後の戦を見せてやる

平家を越中に  
入れさせない！！



一刻もはやく  
かけつけなくては…

残念なことに  
安宅の戦は平家の  
勝利におわり  
北陸諸将は敗走  
することになったのです